

# 第4期ながさき養豚振興計画（令和8～12年度）の概要

本県は平成18年度以降、「長崎県養豚振興プラン」から第3期計画まで策定し、地域養豚研究会を核に担い手育成、生産性向上、エコフード・飼料用米活用、排せつ物処理施設整備等を推進してきた。その結果、令和5年の豚産出額は142億円となり、県農業の基幹作物として定着している。

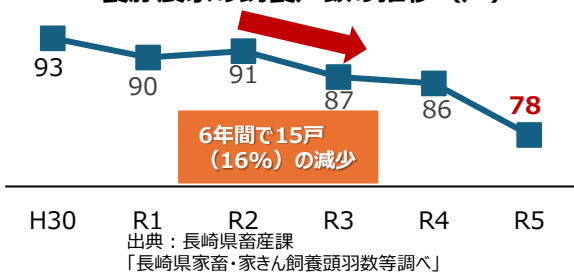
一方、第3期計画における残された課題として、高齢化・後継者不足により、飼養戸数、母豚飼養頭数が引き続き減少する中、多産系母豚の導入は進んでいるものの、子豚の事故率が高い等の飼養環境の課題が見られ、母豚1頭当たりの出荷頭数は伸び悩んでおり、生産性は停滞している。また、生産コストの上昇により所得は減少傾向にあり、経営環境は厳しさを増している。さらに、アニマルウェルフェアに対する理解醸成に加え、家畜伝染病予防法の改正に伴う防護柵等の整備義務化、CSFの拡大（令和7年2月、県内の野生イノシシで初確認）やASFへの警戒、水質汚濁防止法に基づき養豚場から排出される硝酸性窒素の排水基準への規制強化への対応など、解決すべき課題は増大している。

そこで、第4期ながさき養豚振興計画の策定にあたり、生産基盤の強化を図りつつ、ICTやAIを活用した省力化と生産性向上を図るとともに、防疫強化、環境保全・地域調和を生産者・関係機関一体で推進することで、持続的で次世代に継承可能な養豚業を目指す。

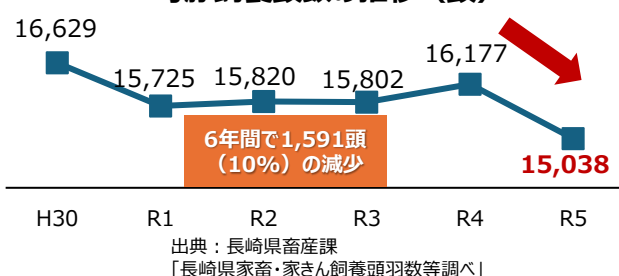
## 現状分析/課題

**①生産基盤の弱体化** 飼養者の高齢化・担い手不足や、畜産環境問題への懸念による規模拡大や新規参入が困難なため、飼養戸数・母豚頭数は減少傾向

養豚農家の飼養戸数の推移（戸）

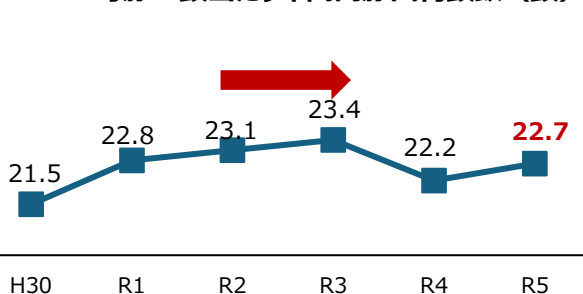


母豚飼養頭数の推移（頭）



**②生産性の停滞** 母豚1頭当たりの出荷頭数は伸び悩んでおり、多産系母豚を飼う上での子豚の事故率の高さ等が出荷頭数の成績に影響している要因の一つと考えられる

母豚1頭当たり年間肉豚出荷頭数（頭）



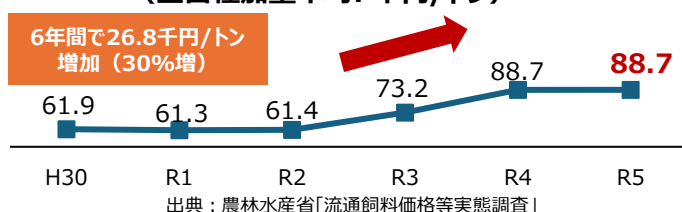
多産系母豚の飼養にあたっての課題

回答項目	割合
産子数が多いが哺乳中の事故が多い	30%
産子数が多いが死産が多い	20%
子豚の生時体重が小さい	15%
導入単価が高い	15%
計画的な母豚導入ができていない	10%
子豚の離乳体重が小さい	5%
その他	5%

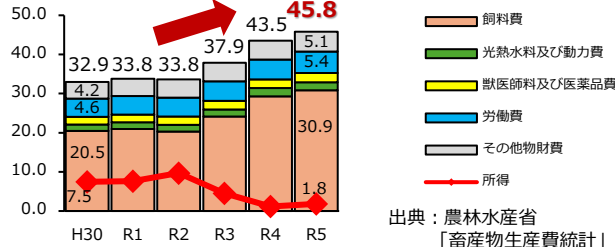
出典：令和5年度 長崎県養豚経営実態調査結果

**③生産コストの高騰** 飼料費の高止まりや物財費や労働費が上昇し生産コストが上昇しているが、上昇分を枝肉価格で確保できていないため、所得は減少傾向にある

配合飼料価格の動向工場渡価格（全畜種加重平均：千円/トン）



肉豚1頭にかかる生産コストと所得の推移（千円）



**④家畜疾病への対応** 口蹄疫やCSF・ASF等の家畜伝染病の発生防止のため、更なる防疫体制の強化が必要

**⑤畜産環境問題への対応** 家畜排せつ物処理施設の老朽化や排水基準等の規制強化への対応が必要

# 目指す姿（令和12年度）

【スマート畜産等の推進による生産性の向上（令和12年目標）（うち豚150億円）】

各種目標（KPI）	基準（R5）	目標（R12）
豚産出額	145億円	150億円
母豚飼養頭数	15,038頭	14,400頭
母豚1頭あたり 年間肉豚出荷頭数	22.7頭	25.0頭
肉豚の平均枝肉重量	81.8kg	80.0kg
肉豚の平均枝肉単価	520円/kg	520円/kg

		母豚頭数		母豚1頭あたり 年間肉豚出荷頭数		枝肉価格		産出額
【基準】	R5	15,038頭	×	22.7頭	×	42,536円/頭	=	145億円
				(+2.3頭)				(+5億円)
【目標】	R12	14,400頭	×	25.0頭	×	41,600円/頭	=	150億円

## 具体的な対策

### ①持続可能な養豚生産基盤の強化

- 畜産クラスター事業等の活用による施設整備・補改修・省力化機械の導入推進
- 畜舎特例法に対応した豚舎・堆肥舎建設の推進による建築コストの低減
- 多産系母豚の導入推進、ピッグドックシステム、グループ生産システムの導入推進
- 農業高校や農業大学校等と連携した就農希望者の情報共有や、遊休施設のマッチングによる円滑な経営継承・担い手確保の推進
- 地域養豚研究会の活動支援による担い手の育成
- 豚マルキンや農業共済制度の加入を促進

### ②ICTやAIを活用したスマート畜産等による省力化と生産性向上

- 多産系母豚の活用により、子豚の頭数が増加した豚舎における飼養環境等の改善のため、ICTやAI機器を活用した管理作業の省力化を図り、事故率低減を目指す取組を推進
- ベンチマーキングに必要な農場データの収集作業をICTやAI活用により省力化し、経営の課題把握および県内全体でのベンチマーク成績を共有することで、生産性向上を図る取組を推進

### ③安全・安心な県産豚肉生産の推進・販売促進

- 動物用医薬品の適正使用の推進 ○県産豚肉消費拡大のためのPR活動や高付加価値化の促進
- エコフード・飼料用米・子実用トウモロコシの利用推進 ○アニマルウェルフェアに対する理解醸成の促進

### ④飼養衛生管理基準の遵守・徹底及び防疫体制の強化

- 病原体侵入防止のための農場のバイオセキュリティ対策の強化など、飼養衛生管理基準の遵守徹底及び適切なワクチネーションプログラムの推進
- 家畜伝染病が万一発生した場合に迅速かつ適正に対応するため、県及び地域レベルでの防疫演習を実施し、防疫体制を強化

### ⑤「みどりの食料システム戦略」に基づく環境と調和した養豚経営の確立と家畜排せつ物処理施設の高度化

- 家畜排せつ物法や水質汚濁防止法などの環境法令の遵守徹底
- 老朽化した家畜排せつ物処理施設の能力低下や悪臭の発生、汚水の漏出を防ぐため、計画的な補改修や機械導入、高度な環境保全対策への積極的な取組を支援
- 堆肥需給のマッチングやペレット化等による堆肥の広域流通を推進